



2012.March



今号の内容

学園を築立つ前に

♥俺たちのフィールド♥ (:v:)/

♣ジャージで健サン、ノーメイク!!! ♣

こんにちは わくわくする学校展について 附属特別支援学校より
附属です

課外活動 『みんなて 楽しく Cantabile ♪』
カンタービレ

『大学祭実行委員会 鳴潮祭の裏側!?!』
が語る!!

国際交流

海外留学のススメ

桜並木を歩く

A Walk Down Sakura Lane!

ドイツ留学体験記

ほか

学園だより

G A K U E N D A Y O R I

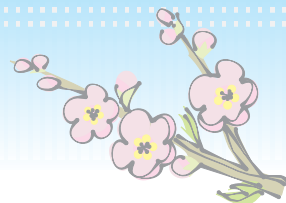
◆◆◆ 学園だより No.65 ◆◆◆

CONTENTS

2012.3

父のことー個人的な、あまりに個人的なー 学 長 田中 雄三	1
学園を築立つ前に	2
なかま	学校教育学部
ジャージで健サン、ノーメイク!!!	学校教育学部
感謝をこめて	学校教育研究科
私の2年間	学校教育研究科
俺たちのフィールド	学校教育研究科
充実した2年間でした	学校教育研究科
学生会・院生会だより	6
本年度を振り返って	学生会会長
一年を振り返って	院生会副会長
退職にあたって	7
退職のご挨拶	今倉 康宏
二つの「黎明」	長岡 強
日本一周の途中で	松島 正矩
多 謝	清水 茂
課外活動～サークル紹介～	11
吹奏楽団 Cantabile	神崎 葵
ラグビーフットボール部	宮前 壮志
課外活動N e w s	12
健康手帳	13
性病と性行為感染症	心身健康センター所長 廣瀬 政雄
国際交流	14
海外留学のススメ	原田 昌博
外国人留学生見学旅行に参加して	徐 欣
桜並木を歩く A Walk Down Sakura Lane!	SIGA Amelia Leba
ドイツ留学体験記	石原 知恵
タイを知ろう!	KWANCHIEN Kanokwan
	NANTAROJ Siriya
	PAKNUA Boontarika
こんにちは附属です	20
もちつき	附属幼稚園
小学校生活で2度の修学旅行	附属小学校
美しい学校を目指して	附属中学校
わくわくする学校展について	附属特別支援学校
図書館だより	22
なるきょう通信 -大学からのお知らせ-	23
鳴門教育大学学生懲戒規程について	
行事予定	24
学生表彰について	24
ALBUM	25
編集後記	25

父のこと 個人的な、 あまりに個人的な



◆ 学長 田中雄三



昨年、父の寿命に追いついた。69歳である。今年からは、私は父が生きられなかった年齢を生きることになる。さて、どういう風にして生きてらよいのだろうか。

非常に個人的な話になって恐縮だが、いつの日か、父と私の小学校時代のエピソードを誰かに話したいと思っていた。それが親不孝だった私の父への供養になるのではないかと思っていた。学園だよりの編集者からは、「テーマは自由」とのことだったので、恥ずかしい思いもあるが、紙面をお借りすることにする。

父は、小学校の教員だった。たまたま、私の小学校6年間は、父が勤務する小学校と同じであった。田舎の小さな小学校であり、私の学校での素行は、父には筒抜けであったと思う。しかし、勉強や素行のことで一度も父から苦言を呈されたことはない。見て見ぬふりをしてくれたのであろう。父親として、よい接し方だったのではないか。

私の爪を切ったり、耳掃除をしたり、バリカンで頭髪を刈ったりするのは、全て父の役目だった。何故か母親の出番はなかった。多分、私が「お祖母さん子」であり、当時嫁（母）・姑（父の母）の確執があったのだろうと後年になって思い至った。真偽はわからない。今の時代、子どもの爪切りや耳掃除をしたり、散髪したりする父親はいないのではないか。私は父から特別にサービスを受けていたように思うが、当時は当たり前のこととして受け止めていた。後年、大学生の頃だったと思うが、父親が何かのはずみに「お前には感謝の念がない」とぼそっと言ったことがある。その時は気にもとめなかったが、何故か魚の小骨がのどに刺さったように頭の隅から取り除けなかった。

父はよく腰痛を訴えていた。腹ばいになった父

親の腰を拳骨で打つと喜んだ。父がタバコを一本吸う間、腰を叩いた。褒美に手枕をしてもらい、昔話をしてもらうのが楽しみであった。私は5人兄弟だが、他の兄弟はどうしてもらっていたのであろうか、記憶にない。

小学校の頃の夢は「会社の社長になって家族を楽しむこと」だったので、父親の「医者にならないか」という言葉に振り向くことはなかった。しかし、その後思うところがあって、医学の道を志した。父親は、息子が内科医となって、死に水を取ってもらうのが願いのようであったが、私は、特別父に相談することもなく、精神医学の道に進んだ。わがままで「感謝の念がない」自我が、こういうところに現れているのかもしれない。

1975年10月、山口市であった学会の帰途、特急「隠岐」の中で父親の急逝を知らせる電報を受け取った。米子駅で降りて鳥取までタクシーを飛ばした。胃潰瘍の穿孔による失血死であった。慢性の胃潰瘍があり、以前から主治医に手術を勧められていた。父は頑として手術を受け入れようとせず、内科的治療の続行を望んだ。私は、手術を勧めていたが、内科医ではなかったので説得力がなかった。その夜、冷たくなった父を抱いて一晩酒を飲んだ。

父の一番の楽しみは、毎年秋の収穫が終わった後、母を連れて温泉旅行に行くことだった。生前、自分の人生を評して私にこんな風に言って、笑っていた。「僕の人生は、実に、実に平凡な人生だった」。享年69歳。戒名、寛明院禅学清道居士。

学園を巣立つ前に

なかま

◆ 学校教育学部社会科教育コース

「なんでも言い合える関係」。私たちが4年間で築いたのは、良くも悪くもそんな関係です。

4年前の入学式、社会科教育コースの名簿に書かれてあった、「男子9名、女子2名」の文字を見て、おそらく11人全員が肩を落としたことでしょう。美人な女子たちに囲まれたキャンパスライフを妄想していた男子も、華やかな女子会を夢見ていた女子にとっても、それぞれの高校時代に思い描いていた大学生活とは180度違ったものになるだろうと感じたからです。楽しみな気持ちでいっぱいだった胸の中に、勢いよく不安の波が押し寄せたことは今でも忘れることができません。入学当初は他の学科の盛り上がっている様子が羨ましくて仕方がありませんでした。しかし4年経った今では、あの不安な日々も良い思い出だと感じる程、私たち11人の関係は非常に濃いものになりました。良い意味で180度違った大学生活を送ることができました。



合宿研修、鳴潮祭かくし芸に向けてのダンス練習、塩焼きそば、おじろでのスキー旅行、胃腸炎の集団感染、新入生歓迎会での仮装、学食でみんなでご飯を食べたこと、カラオケやボーリング、……、「もう卒業なんだなあ」と考えるだけで、語り尽くせないほどの思い出が頭の中を走馬灯のように駆け巡ります。そんなたくさんの思い出の中でも一番印象に残っているのは、人文棟217教室で過ごした何気ない日々のことです。通称「A 217」は、社会科コースの学部生が心置きなく勉学に励むことができるように、と社会系コースの先生方が設置してくださった部屋です。実際には、4年生になったら使用できるという暗黙のルールのもと、主に教員採用試験のための勉強や卒業論文の執筆に励む中での憩いの場となっていました。A 217に行けば必ず、誰かが何かをがんばっていて「私もがんばらなきゃ」と自然にやる気が湧いてきました。この一年間で私たちの親密度は以前にも増してグッと上がりました。

「なんでも言い合える関係」とは必ずしも良い関係とは言えないかもしれません。しかし、私たちがこの関係を持続できているということは、常に互いが互いを思いやる気持ちがあるからこそだと思っています。

これからは、今までのようにA 217に自然に集うことはありません。私たちはそれぞれの人生を歩む中で「思いやりの心」を忘れず、すべての人に感謝しながら生きていきます。大学生活を支えてくださった方々、本当にありがとうございました。

(小学校) 住友 千尋, 野村裕次郎, 古田 安伸, 宮本 陽平, 渡邊 匡

(中学校) 阿部 友彦, 今瀬 雄太, 香川 智司, 梶山 瑞生, 佐々木健太, 藤川 奈緒 (文責:住友)

学園を巣立つ前に

ジャージで健サン，ノーメイク！！

◆ 学校教育学部体育科・保健体育科教育コース



(スキー実習)

適当で、お調子者！
だけど実はすごく真面目な一面も・・・？
体育科のパパ・たけし

The 適当！人が弱っているときにだけ優しくしてくる
体育科のおにい・岡ちゃん

見た目とお酒は男前！
でもやっぱり中身は女の子？(笑)
体育科のママ・せいちゃん

あなたがいなければ体育科は崩壊していました。
体育科のおばあ・みーちゃん

あんた、さやと付き合ってたと思うよ！
キャプテン・しゅうへい

鳴門教育大学は4年制の国立大学の中でも特に人数の少ない大学です。一学年は約120人で、授業も少人数制の授業が多いです。私はそんな鳴門教育大学体育科で4年間過ごしてきました。だから同じ学年の人はほとんど友達です。それどころか、先輩・後輩の壁などなく、学年を超えて仲良くなります。それは鳴教のいいところだと思います。

でも、ときどき考えることがあるんです。それは、もし自分が一学年1,000人を超えるような大きな大学へ入学していたとしたら、自分の大学生活はどのようになっていただろうかと。

それはそれで、たくさんの友達ができ、楽しい大学生活だったと思います。ちゃんとオシャレして、ジャージで学校に行くこともないし、電車で通学なんてしていたかもしれません。でも、私は鳴教で良かったと思います。それでも鳴教が良かったと思います。

ジャージに健サン(健康サンダル)で学校に来ている人やノーメイクなんて当たり前！！でも、体育祭があったり、学祭でかくし芸をしたり、学年全体飲み会(いで会)があったりするの鳴教だからだと思います。

私にそう思わせてくれたのも、無茶苦茶だけど、めちゃめちゃ楽しい友達がいたからです。

小さな学校ですが、ここ鳴教での「人」との出会い、たくさんの経験は私の忘れられない思い出になり、人生の財産となりました。

ありがとうございました。

(小学校) 井出 和宏, 岡野 勇貴, 齋藤 秀平, 清木場雅和,
宮部 実里, 宮前 壮志, 八木まどか

(中学校) 岡田 彩耶, 日置宏一郎, 古川 聖翔

(文責:井出)

実は身長172cm！！
かわいいキャラくま
キャラ・こばやん

100まどか, 0まどか,
真面目まどか なぜか
モチモチ・まどか

元気にやっていますか？(笑)
伝説の男・ひおにい

あんた、しゅうへいと付き合ってたと思うよ！
ヤンキース・さや

座右の銘は、一日一歩
ならず一日一人
チャラ男・りん

学園を巣立つ前に

感謝をこめて

◆ 学校教育研究科 吉田美奈



大学院の説明会に参加するため鳴門教育大学を初めて訪れたのは、真夏。どこか南国の雰囲気漂う校舎に親しみを感じました。その年の秋、研究生として学生生活をスタートし、半年後の春、無事院生になりました。

それまで子どもとは縁のない生活を送っていましたが、授業や実習では子どもについて幅広く学

び、修論を書くころには子どもがよりよく生きられるためにできることは何だろうかと考えるようになっていました。

学生生活に仲間の存在は欠かせません。夢を真っすぐ見つめ、授業に、アルバイトに、そして遊びにも手を抜かず頑張る仲間たちに、たくさんの刺激を受けました。忙しいスケジュールの合間を縫って、誕生日にサプライズパーティーを開いてくれたことも、大切な思い出です。

また、公私にわたって厳しく優しくご指導いただいた先生方には感謝の気持ちが尽きません。ゼロからのスタートだった私が院生としてやっていけるよう、何度も何度も励ましていただきました。私の人生に道筋をつけ、歩き方を教えてくださったこと、本当に感謝しております。

大学生活で出逢ったすべての人に、すべての出来事に感謝をこめて。ありがとうございました。

〈人間教育専攻 幼年発達支援コース〉

私の2年間

◆ 学校教育研究科 田中史織

カエルの姿焼きと生サソリのから揚げを食べたのは中国北京だった。日本一の山、富士山に登ったのは台風のさ中だった。なりきり上手の私は、池田屋（現居酒屋）で沖田総司として階段からころげ落ちた。二条城で大政を奉還した。岩崎弥太郎を高知城下で蹴とばした。（もちろん竜馬として）。異国の方と共演してマリーアントワネットを演じたのはベルサイユ宮殿。スイスでは「クララのいくじなし！」と友達と熱演した。韓国では、値切りすぎて、店の店員の怒りをかっした。この2年間、ありとあらゆることに挑戦してきた。充実した日々で満足している。

入学した頃、不安でいっぱいだった私は、この大学で出会えた仲間や先生方のおかげで、上記のようなことに取り組み、沢山のことを学んで、自分を大きく成長させることができた。やり切ったという満足感と、まだまだこれからという期待感を持ちながら、ここで出会えたすべての人たちに

本当に感謝しています。

〈教科・領域教育専攻 言語系コース（国語）〉



（スイスの雪山にて）

学園を築立つ前に

俺たちのフィールド

◆ 学校教育研究科 吉田秀彦

私にとって鳴門での院生活の2年間はとても早いものでした。入学当初、風がとても強く、校内に猫がたくさんいたことが印象によく残っています。

大学院に入学する前、大学では純粋数学をやっていましたが、鳴門教育大学大学院では数学教育のゼミに入り、その分野について勉強し始めました。分からないことが多く、ゼミで苦戦することも多々ありましたが、ゼミの仲間とともに解決することができました。

また、フィールド実践研究では、創造性を育成するような教材を考えるため、メンバー6人とはほぼ毎日、夕方から夜中まで意見を交わし合い、よりよい授業を行おうと時間の許す限り話し合いました。多くの時間を割いたのにも関わらず、本番では納得のいく授業、結果は得られませんでした。しかし、この6人とフィールド実践研究を成功させるために、意見を交わし合った時間は、自分に

とってかけがえのないものとなっていました。その6人のメンバーとは今では兄弟のような間柄になり、共に喜び、悩みをわかち合えるとてもすばらしい仲間が

できました。鳴門教育大学大学院で、多くの経験ができたことは自分にとって大きな財産だと思っています。

最後になりましたが、お世話になった数学コースの皆さん、厳しく指導して下さいました。本当にありがとうございました。

この2年間の経験を糧に教員生活がんばっていきたいと思います。

〈教科・領域教育専攻 自然系コース（数学）〉

充実した2年間でした

◆ 学校教育研究科 萩原俊男

私は長く教職に就いていましたが、新たに音楽科の教職の資格を取得すること、そしてハーモニカの研究をするという目的を持って、大学院の芸術系の音楽コースに入学しました。

大学院での研究テーマは「ブルースハーモニカのための練習曲の作曲」というもので、音楽を専門的に学習したことがない私にとっては、過大とも思えるテーマでした。

入学後は教職に必要な学部の授業と大学院の授業、そして作曲のゼミと忙しい毎日でしたが、どの授業も新鮮でおもしろく、刺激的なものでした。



作曲のゼミでは、キーボードハーモニカや和声学などの音楽の基礎から、作曲、演奏、解説執筆まで懇切丁寧に指

導していただきました。私がほとんど感覚的に創作したメロディーに理論的な分析と解釈、さらに楽曲としての形式やコード付けなどのアドバイスをいただき、試行錯誤しながら手直ししていくと、私にとっては見違えるような楽曲になっていきました。そして当初の予定よりも多く、練習曲を20曲も作曲することができました。

私がこのような研究ができたのも、私の研究テーマを受け入れ、そのために必要な研究環境を整え、熱く指導していただいたおかげだと、本当に感謝しています。

これも、音楽と音楽教育の研究をしている鳴門教育大学の大学院教科・領域教育コースで研究できたおかげだと思います。

私はこれからも音楽の研究を続け、これまでの教職経験も生かし、社会貢献をしていきたいと思っています。

〈教科・領域教育専攻 芸術系コース（音楽）〉

≡ 学生会・院生会だより



本年度を振り返って

4年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

昨年は先輩方にとって就職、進学などの活動があったかと思えますし、日本全体で見ても東日本大震災という大きな災害があり、大変な年でした。

学生会では昨年も様々なイベントを行い、行事に携わっていました。例えば夏のかき氷大会、クリスマスイルミネーション、ココアデー、卒業アルバムの制作などです。

このような活動は学生会として鳴門教育大学のみなさんと関わる大事な活動であり、多くの方の協力を得て行っています。「(ココアなどが)美味しかった」「こんなイベントしてたんや」など言っていただけたことも大きな力になっています。

現在(1月)は卒業式の後の卒業記念パーティーに向けての準備を進めています。楽しんでいただければ嬉しいです。

◆ 学生会会長 吉浦早紀

昨年の「今年の漢字」は『絆』でした。学生会の活動をしていくなかで、多くの方に協力いただき、たくさんの「絆」を感じた年でした。

これからも『絆』を大切に、先輩方の姿を見習いながら活動していこうと思います。

ありがとうございました。

〈学部・中学校国語 3年〉



クリスマス・イルミネーション

一年を振り返って

本学に入学して、はや1年。学生生活は鳴門の風のように音を立てて、あっという間に過ぎていきます。

4月、入学したばかりで「院生会」がどのような組織なのかも分からないまま、ソフトボール大会の企画・運営を始め、学生間の交流を図れる大会となるよう、ルールなどを工夫しました。

7月には国際交流パーティーがあり、休む間もなく企画・運営へ取り組みました。様々な人が交わるキッカケとなる場所づくり、「交流」という言葉について考えながら企画していきました。

11月のソフトボール大会を控える中で、他の行事が重なり大変な思いもしましたが、できるだけ多くの学生に参加してもらえよう試行錯誤を繰り返し、無事に大会を迎えることができました。

◆ 院生会副会長 廣瀬航

雨天順延のため予備日での開催となり、参加できなくなった人も



いましたが、当日はソフトボール大会には最高の、雲一つない快晴のもと、楽しく、はつらつとプレーする多くの学生の姿が見られました。これも偏に、時間を惜しんで企画・運営をしていただいた院生会役員の皆様と企画に参加していただいた各コースの皆様のおかげです。

2011年度の院生会活動が、皆様にとって少しでも有意義であったと思っていただければ嬉しく思います。本当に1年間ありがとうございました。

〈院・現代教育課題総合 1年〉

退職にあたって

退職のご挨拶

◆ 自然・生活系教育部（自然系コース（理科））教授 今 倉 康 宏

昭和64年（平成元年，1989年）4月，10年間勤務した徳島大学薬学部から助教授として鳴門教育大学に赴任してから既に23年が経とうとしています。退職するに当たり振り返ってみますと，鳴門教育大学での年月は長いようで短かったように感じますし，現在の田中雄三学長を始め4人の学長の下で勤務させていただいたこととなります。非常に多くの学生諸君，教職員の皆様方との出会いがあり，いろいろな出来事があり，いろいろな経験をさせていただき大変実り多い年月であったとも感じています。

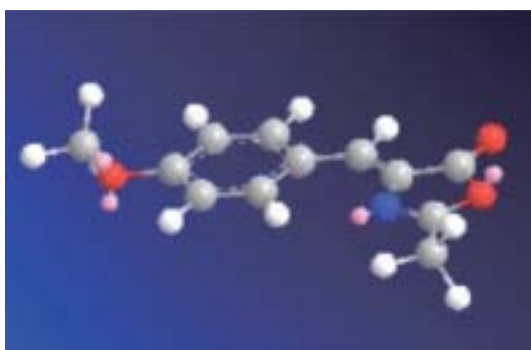
就任当時，自然系（理科）コース・化学研究室は，充実した研究設備と重鎮の教授2名，助教授2名（私を含む，後に教授），助手1名（現教授）と多くの活発な学生達という大変恵まれた活気のある研究室でした。懐かしく思い出されるのは，Y教授が新任の私に，「君は自分の専門である有機化学・天然物化学の研究に没頭し，科研費が取れる研究をきなさい。そして教授になれば，本校は，教員養成の大学でもあることから研究を活かした独自の教育教材の開発と実践教育を推進し，大学に貢献きなさい」と助言していただいたことです。

（本学の環境に戸惑いを感じていた私にとって大変貴重なお言葉であり，本学での私の研究の原点となりました。）

私の最大の喜びは，多くの優秀で勤勉な素晴らしい学生，院生さんがゼミ生としてきてくれたことです。平成10年頃から鳴門教育大での教育・研究の成果がではじめ，現在に至るまで科研費をほぼ連続して取ることができ，また，JSTからは，SPP，Jr.サイエンスなどの公募に採択されるなど，研究費に困ることなく充実した教育・研究に没頭することができました。また，多くのゼミ生が教員として活躍をしていただいていることと，平成8年，本学が兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程）に構成大学として参加する際に，まだ助教授でしたが，Y教授と共に^{マルゴウ}〇合教員として加わり，理科コースで最初のドクターの学生を送り出すことができたことも大きな喜びです。

鳴門教育大学での23年間，本当にいろいろな面で大変充実した教員生活を送らせていただくことができました。教育，研究，附属学校部長としての管理運営など，非常にやりがいのある仕事の機会と場を与えていただきました鳴門教育大学に心より感謝しております。

最後に鳴門教育大学の益々のご発展，および教職員と鳴門教育大学同窓会会員の皆様方のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。



オワンクラゲ（GFP：蛍光物質含有）* （SPP事業で合成したGFPモデル化合物）

* <http://www.carfeed.net/videos/channel/hirose55photography>（写真）



退職にあたって

二つの「黎明」

◆ 芸術・健康系教育部（芸術系コース（美術））教授 長岡 強

学部学生の受け入れが始まる2年前の昭和59年、文部省の設置審で美術講座教員の先発隊に加わることが決まったので、「鳴門教育大学の構想の概要」を読みながら、新構想大学で教えられる喜びでいっぱいの日々をおくりました。

当時は、瀬戸大橋も開通しておらず、広島から宇高連絡船に揺られながらカリキュラムや建物など開学準備のための会議に何回となく通ったものでした。芸術棟の基本設計の会議で慎重に協議を重ねて建物の設計が決定していたにもかかわらず、いざ着任してみると芸術棟は完成しておらず、自然棟の物理の先生の研究室を借りての仮住まいが始まりました。

自然棟から大学会館へ行くにも泥沼で、雨の日などは長い板の上を順番待ちしながら通るといった不便さでした。

食堂では、講座を越えて話の輪が広がっており、黎明期の教職員一体となった心意気、希望に満ちた学部生や院生、本当に素晴らしい顔で満ち溢れていました。

まさに私の人生で最高の時で、しっかり充電することができました。

以来26年間勤めさせていただきました。至りませぬ私が大過なく勤めを終えることができますのは、一重に黎明期にお世話になった方々や、それ以後の多くの方々のお陰と深く感謝しております。定年退職の年に創立30周年記念モニュメントの制作にあたらせてもらったことは、身に余ることと光栄に思っております。

構想、試作と苦悩の過程を辿り、最終的にはご覧のような「限りない未来に向かって前進する「黎明」の像」としてまとめてみました。この像は、第2の黎明を意図し、「輝かしい次の時代への始

り」を表現したつもりです。

この像には、私が学部1期生受け入れ以来26年間本学で接してきた学生のイメージや精神や願いといったもの、そして芸術性も少々加味し、様々なものが凝縮されています。

鳴門教育大生の気質を何とか表現できないものかと、学生たちに思いを寄せながら制作してみました。

教員就職率2年連続全国第1位を誇っている鳴門教育大学ですが、本学の末永き発展と学生諸君の活躍を見守ってくれるものと思っております。

教職員の皆様、学生、院生諸君にはいろいろお世話になりました。ありがとうございました。



鳴門教育大学創立30周年記念モニュメント「黎明」



退職にあたって

日本一周の途中で

◆ 芸術・健康系教育部（芸術系コース（美術））教授 松島正矩

鳴教大勤務が20年近くになろうとしている今、初めて鳴門の地を訪れた30年前を懐かしく思い出している。海のない長野県に生まれた私は、30年前グラフィックデザイナーであった時、一念発起して車で日本海岸線一周を計画し、初めて四国を訪れた。東京を起点に西へ向かい、なるべく海の見える道を進んだ。瀬戸内海はちょっと省略し、淡路島から小さなフェリーで鳴門市亀浦港へと渡り、その後、徳島市、小松島市へと移動した。

初めての鳴門は、起伏に富んだ美しい海岸線が素晴らしく、初夏の緑がまばゆいほど鮮烈な印象として残っている。当時、鳴門大橋は工事中であり、その驚くべき土木技術に感嘆した。鳴門教育大学は前年の昭和56年10月に開学していたのであるが、人文棟がこれから着工しようという時期であり、まさに創設期であった。民間人の私は、まさか10年後に勤務することになる大学が近く

に建設中であろうとは知る由もなく、通り過ぎてしまっていた。

その後、突然の転機が訪れ鳴教大で教えることになった。あわただしい日々はあっという間に過ぎ去り20年近く経ってしまった。私の場合、幸いにも病気と怪我には無縁であったので、親が他界したとき以外は休講も遅刻もなく授業を行うことができた。さまざまな職務についても全うすることができた。どうか皆さんも健康に留意し、教育・研究に精進されるよう願っています。

追記

下の写真は、2月に行われた美術コースの定年退職教員3人による展覧会の模様で、学生課の平井さんの取材によるものです。学長先生をはじめとして、多くの教員、職員、学生の方々に鑑賞して頂きました。心よりお礼申し上げます。



『退職3人展』より
平成24年2月20日（月）～23日（木）鳴門教育大学芸術棟1階ギャラリー
デザイン 松島正矩



退職にあたって

多謝

◆ 人文・社会系教育部（言語系コース（国語）） 准教授 清水 茂

私は、平成4年（1992年）4月1日から平成24年（2012年）3月31日までの20年間、鳴門教育大学実地教育分野担当教員として、実地教育（教育実習）の企画・立案・運営・評価、いわゆる実地教育実践に取り組んで参りました。大学院生を対象とする、「教師論」「同和教育論特講」の授業者として教壇に立つこともできました。

「介護等体験実習」を推進するために、徳島県内の社会福祉施設（高齢者にかかわる施設／児童福祉にかかわる施設／障害者にかかわる施設／生活保護にかかわる施設）の実状を直接伺うとともに、これからの福祉のあり方を施設の方々と共に考え、試行してきました。

その時、私の精神的支柱となったものは、「藤原与一博士の国語科教育実践理論」でありました。

大学における教育実践研究者として、みずからの実践を見つめ直し、それらに考察を加えることにより、下記の単著書をまとめることができました。

1. 『国語科教育実践理論の研究』 溪水社刊、平成元年（1989年）
2. 『同和教育の実践・研究』 溪水社刊、平成10年（1998年）
3. 『実地教育・教育実習の実践的研究』 溪水社刊、平成14年（2002年）
4. 『国語科教育実践の探究』 溪水社刊、平成16年（2004年）
5. 『教育実習个体史』 溪水社刊、平成18年（2006年）
6. 『国語科教育実践个体史』 鳴門教育大学地域連携センター刊、平成20年（2008年）
7. 『阿波藍の詩－藍師 佐藤昭人－』 鳴門教育大学地域連携センター刊、平成21年（2009年）
8. 『学校教育実践个体史－私の「教育週禄」－』 平成22年（2010年）
9. 『阿波大谷焼の詩－陶芸家 矢野款－』 平成23年（2011年）

出版するたびに、我が母校の図書館に献本できることは、自分にとって大きなよろこびでした。国語科教育実践研究者として、ひとすじの道を歩んでくることができた自分は幸せでした。志を同じくして共に歩んで下さった先生方、ありがとうございました。受講生（学部生・大学院生）にも恵まれました。事務職員の方々には、私をいつも支え励ましてくださいました。

みなさん、お世話になりました。ありがとうございました。

母校鳴門教育大学のさらなる発展を祈ります。

（平成24年2月28日）



上記1～9の自著



図書館桜

課外活動 サークル紹介

みんなで楽しく Cantabile ♪

◆ 吹奏楽団 Cantabile 神崎 葵



みなさん、こんにちは。吹奏楽団 Cantabile です。

みなさんは吹奏楽を知っていますか？中学・高校の部活動で所属していた人もいれば、テレビや映画などで見たことがある人もいると思います。吹奏楽ではフルート、クラリネット、ホルン、トロンボーンなどの楽器を使用してクラシックやJ-POPなどいろんなジャンルの音楽を演奏します。

Cantabile は地域の老人ホームや保育所などに演奏のボランティアに行かせてもらったり、学祭や卒業パーティーのステージで演奏したりしてい

ます。今年の1月28日にケアハウスなるとさんで演奏のボランティアをさせていただきました。40人近くの方が私たちの演奏を聴いてくださりました。曲に合わせて歌を歌ったり拍子をしてくださったり、聞いてくださった方も、演奏をしている私たちも一緒になって楽しめたステージになりました。Cantabileの練習は毎週月曜日、合奏を中心に行っています。どんな曲を演奏するのか、どんな演出をするのか等、みんなでたくさん話し合っ

て活動を進めています。部員たちはみんな仲がとってもよく、集まって話をすると笑いが絶えません。経験者も初心者もいて、部員同士助け合っ

て演奏しています。

元吹奏楽部でしたという方も、楽器は1度も触ったことないけど演奏してみたいなと思う方も、吹奏楽団 Cantabile に少しでも興味を持たれたら、気軽に月曜日・クラブハウス2階に来てくださいね。

私たちと一緒に楽しく演奏しましょう！

〈学部・幼児教育専修 2年〉

ラグビーしようぜ！

みなさん、こんにちは。ラグビーフットボール部です。

私たちは、本気で四国一を目指して活動しています。昨年の秋の四国インカレでは準優勝という成績を残し、中四国大会に出場しました。

そんな私たちのモットーは、「ワイルド&クレバー」です。これは、情熱的なプレーを心掛けながらも、頭は冷静にということです。普段の生活からこれを心掛け、ラグーマンとしてだけでなく、一人の人間、教師としても大きく成長できるよう、努力しています。

ラグビーは、痛くて危ないスポーツというイメージがあるかもしれませんが、全然そんなことはありません。部員の多くが、大学からラグビーを始めましたが、みんなやりがいがあるスポーツ

◆ ラグビーフットボール部 宮前 壮志

だと言っています。

なので、みなさん！ラグビーを一緒にやりましょう。マネージャーさんも大歓迎です。

ラグビー部はみんな仲が良く、居心地がいいので、興味のある方はぜひ！



〈学部・小学校体育 4年〉

課外活動 News

鳴潮祭 の裏側！？

11月11日(金)から13日(日)の3日間、第28回鳴潮祭が盛大に開催されました。
みなさんに楽しんでもらえるよう、大学祭実行委員会のメンバーは何か月も前から準備を進めてきました。力仕事や進行、連絡調整など裏方として動き回った実行委員のみなさん、お疲れ様でした。(学生課)



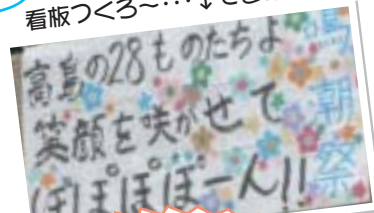
テントを運んで…



机も運ばなきゃ…



看板つくろ〜… ↓できあがり



ステージの準備



時間押してるな、まいていこう



徳島駅前PR

宣伝活動の日々



フジグラン北島での、大学祭PRイベント



緊張したけど、たのしー♪

「Tokushima Campus link」 FMとくしまの収録 左はパーソナリティの がとうゆきえさん



ご支援・ご協力くださったみなさん ありがとうございます！

● 実行委員会をやってみたいって思った？

ほれまじやってよかった！！当日までの間、準備は大変だったけど、3日間は本当に楽しかったぞ☆ この達成感は、実行委員にしか味わえませぬ！たくさんの方々に感謝です。

● 次回を担う後輩に一言どうぞ

集まりには、ちゃんと参加しよう！(笑) みんなで、早め早めに取り組んで、楽しい学祭にしてくださいね☆

性病と性行為感染症

◆ 心身健康センター所長 廣瀬政雄



2004年に日本の高校生の性行為経験率と経験者における性器クラミジア感染症発症率が調べられました。それによると性行為経験率は男子で3割強、女子で半数弱であり、性器クラミジア感染発症率は約10%であったということです。先進諸国の同年代の感染率は2%程度といわれていますので、わが国のそれは高いということになります。本学においても、妊娠あるいは性行為による感染症で心身健康センターを受診または相談に訪れる学生はそんなにまれではありません。今回は、性行為による感染症についてまとめてみましょう。

性感染症では次のような諸症状が現れます。

- ◆ 排尿時痛や頻尿などの膀胱炎症状がある。
- ◆ 性器に痛み、かゆみがあり、着色したおりものがあり異臭がする。
- ◆ 性器の皮膚や粘膜に発赤やイボができる。
- ◆ 性行為をすると痛む。
- ◆ 不正性器出血がある。
- ◆ 喉が痛むなどの異変を感じる。

ここで、「性行為による感染症」という言葉を用いる理由は、以前使われていた「性病」と、現在使われている「性感染症」では意味が異なってきたためです。性病は性病予防法で定められた、梅毒、淋病、軟性下疳及び第四性病のことをさしていましたが、1999年に「伝染病予防法」、「性病予防法」、「エイズ予防法」及び「結核予防法」（これのみ2007年）をまとめて『感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律』（略して感染症新法）ということになった結果、性感染症

(Sexually transmitted disease, STD または Sexually transmitted infection, STI) は、性行為で感染する全ての感染症をいうことになりました。これに属する病原体は30種類以上もあるといわれています。

immunodeficiency syndrome, AIDS) を引き起こすヒト免疫不全ウイルス (Human immunodeficiency virus, HIV)、成人T細胞白血病を引き起こす成人T細胞白血病ウイルス (Human T-lymphotropic virus, HTLV)、尖圭コンジローマの原因となるヒトパピローマウイルス (Human papillomavirus, HPV)、性器ヘルペスの原因となる単純ヘルペスウイルス (Herpes simplex virus, HSV) 及びB型肝炎の原因となるB型肝炎ウイルス (Hepatitis B virus, HBV) などがあります。細菌ではクラミジア感染症、梅毒、淋病及び軟性下疳などがあります。真菌（カビ）には性器カンジダ症、いんきん、たむしなどがあります。寄生虫や原虫には性器トリコモナス症、ケジラミ症、ヒゼンダニによる疥癬（かいせん）などがあります。

治療の面では、化学療法の進歩によりほとんどが治るようになりました。しかし、再発を繰り返すものもあります。エイズも死亡率は低下しましたが、ウイルスが消滅するわけではないので、長期間、薬の服用が欠かせません。予防にはコンドームが有効ですが、万全ではありません。何よりも慎重な行動が必要です。

荻野吟子（1851年、嘉永4年生まれ）は、夫から淋病をうつされた後、苦しむ女性のために一念発起して日本で最初の女性医師になりました。彼女の伝記的小説「花埋み」には、治療がなかった時代の性病治療のはずかしさと苦しみがこれでもかと描かれています。また、パトロンからうつされた梅毒を他者にうつそうとする女性が描かれた「薔薇連想」には、感染後3か月ほどして下腹部の皮膚に現れる特徴的な薔薇疹をモチーフにして、梅毒の進行がせつなく耽美的で背徳の香り高く描かれています。いずれも医師で作家の渡辺淳一氏によるものです。



海外留学のススメ

◆ 人文・社会系教育部（社会系コース） 准教授 原田昌博

少し古い話から始めます。今から15年前、ドイツ現代史を専攻する大学院生だった私は1年間に亘りドイツのベルリンに留学する機会を得ました。ベルリンは私がずっとあこがれていた街でした。森鷗外の『舞姫』に描かれたプロイ



ベルリン留学中の筆者（1997年4月）
（ベルリンの大通りウンター・デン・リンデン）

セン時代、世界的な文化都市として繁栄したワイマル共和国時代、そしてナチス・東西分裂時代の歴史的遺物が日常の風景となった時の喜びは今でも忘れることができません。本業の研究に関して言えば、ドイツ再統一から7年が経過していた当時、旧東独側に保管されていた史料にもアクセスが可能になっており、新しい史料を見つけようと一日中文書館にこもった日々は、歴史を根底から解き明かしていく醍醐味と難しさを身をもって実感する貴重な経験でした。私は今でも毎年史料調査のためベルリンを訪れ、その度に留学時代に指導してくれた先生や友人たちと旧交を温めています。統一から20年以上が経ったドイツはかつてここに2つの国家が存在していたことを忘れさせてしまうほど変化しており、時の流れを感じさせますが、留学時代に築いた人間関係は私にとって変わることない宝物になっています。

さて、こうした私自身の体験もあって、学生のみなさんにも海外留学にチャレンジされることをお勧めします。留学によって語学力を高めたり、最新の研究を吸収して自らの研究を発展させることはもちろんですが、日本とは違う風土の中でその地の文化に触れ、人と交流することそれ自体が自分を成長させるかけがえのない経験となるはずです。とりわけ、外国での生活の中で、自らのものの見方・考え方や価値観を相対化してほしいと願っています。日常のしぐさや習慣から社会の基底となる価値観まで「所変われば」というものは結構あります。留学中にそれを一つ一つ感じ取り、「あたりまえ」と思ってきたことが「数ある中の一つ」に過ぎないと実感するこ

とで、きっと自分の社会も違って見えてくるはずで。言い換えれば、それまで「マジョリティ」として生きてきた自分が「マイノリティ」になる経験こそが寛容の大切さ、あるいは自分の社会に必要なものを考えるきっかけになるのではないかと思っています。

もちろん、留学生活はすべてがバラ色であるわけではなく、様々な苦勞も伴います。間違いなく大変なのは言葉だと思います。私もドイツ語には悩まされました。留学前に抱いていた「ドイツ語を多少なりとも読めるのだから会話も何とかできるのではないか」という漠然とした期待は到着後、数日にして粉碎されました。ドイツ語は「呪文」にしか聞こえず、聞くことも話すことも全く覚束ない自分に失望し続けました（言うまでもないことですが、ただ外国に「いる」だけで外国語能力が進歩するはずはありません）。それでも3ヶ月ぐらい経てば（そしてそれに勉強すれば）、ドイツ語が「呪文」から「言葉」に変わってくるから不思議です。

最後にもう一言。もし留学される機会があれば是非とも陸路で国境を越えてみてください。日本にいと非常に高く感じる国境の「壁」はわれわれが思うほどではありません。ご存知のように、ヨーロッパの国々は統合の動きの中で国境を事実上廃止しています。留学時代にドイツからチェコに入ったときに体験した国境警備兵の物々しいパスポートコントロールは過去のものとなりました。昨年訪れたドイツとポーランドの国境の写真は、地図の上に引かれた一本の線を感じさせるものが今のEU域内にはないことを伝えています。陸路で国境を越える体験は、大げさに言えばみなさんの世界観を揺さぶるかもしれ



ドイツとポーランドの国境（2011年9月）
（橋の中央が国境で向こうがポーランド）

れません。みなさんが世界のどこかで新しい経験を重ね、学生生活をより充実したものにされることを願っています。



外国人留学生見学旅行（1泊2日）に参加して

◆ 学校教育研究科 ^{ジョ} 徐

^{キン} 欣（中国）

あっという間に時が過ぎ、鳴門教育大学に来て早3年、この間、留学生のためのいろいろなイベントがありました。今年の見学旅行に参加してみて、前の旅行に行かなかったことを、とても残念に思いました。

大型バスに乗って出発し、初めの見学先の『王子製紙米子工場』に到着。工場見学室にてDVDとパンフレットを使用しての説明後、バスで移動しながら、各製造工程の案内をして頂きました。米子工場は高級塗工紙、高級白板紙の専用工場です。日本の工場は初めてだったので、びっくりしました。なんでも無駄に使わないように使用後は回収し、再使用します。木材も薬品も無駄なく使う合理的なシステムです。工場を歩きながら、紙の製品を見てすごいと思いました。工場の社員の方が親切に説明や案内をしてくださり、本当に感謝しています。

午後は『まがたまの里伝承館』で、大変有意義な研修をすることができました。私たちは一生懸命にまがたまを作りました。それから、『小泉八雲記念館』『武家屋敷』に見学に行きました。連綿と続いた青山、さらさらと流れる小川、見上げた空がとてもきれいで、「深呼吸してごらん」と空に言われているような気がしました。みんなで一緒に散歩しながら日本の美しさを感じたことが印象に深く残っています。

ホテルに到着。日本でホテルに泊まるのは初めてです。旅行後に日本語の先生に「今回の旅行は

どこが一番楽しかったか」と聞かれました。面白い答えでしょうがホテルが一番楽しいと答えました。ホテルが一番の理由は、皆でお風呂に入って、日本の浴衣を着て、おいしいご飯をゆっくり食べて、友達と雑談して、本当にのんびり過ごせたからです。

2日目の『松江フォーゲルパーク』は鳥と花のテーマパークです。エントランスの奥の扉の向こうの大温室の中は、いろいろな花が咲いていて、とてもきれいでした。日本人は花が大好きだと日本に来て知りました。スーパーでは季節にかかわらず、いつも花を売っています。花は日本にきれいさをもっと添えています。松江フォーゲルパークで一番印象に残ったことは鳥にエサをやることです。エサをやった瞬間に、長い首がいっせいにエサの落下地点に突進するのは面白かったです。

最後は『出雲大社』へ向かいました。どの日も天気恵まれ快晴で、ありがたかったです。日本のお寺は中国のお寺に比べるととても小さいと感じていました。でも、出雲大社に来てびっくりしました。こんなお寺は初めてです。古代より縁結びの神として崇められてきた古社、松並木の参道の奥には本殿をはじめ、拝殿や彰古館などが立ち並び、荘厳な雰囲気をたたえていました。初めてお寺で願いごとをしました、ちょっと緊張しました。でも、出雲大社で願ったので、願いが叶うかもしれないと思います。

きれいな夜景を見ながら、帰りました。お土産を忘れないようにと書いていたので、帰り道でたくさんのお土産を買いました。

今回、鳥取県と島根県への研修旅行で日本の文化に触れ、様々なことを感じました。一生忘れない体験です。鳴門教育大学で勉強したことと、このような経験を活かして、これからも日本で研究を続けていきたいと思っています。

（院・言語系コース（英語）2年）



王子製紙米子工場にて 前列向かって右端が筆者



桜並木を歩く A Walk Down Sakura Lane!

◆ 学校教育研究科 シンガ アメリカ ランバ SIGA Amelia Leba (フィジー)

As the morning rays of the sun burst through the darkness on the 21st of March 2010 in the beautiful islands of Fiji, I was airborne on the beginning of an exciting journey to the *land of the rising sun*. It was my first time out of my country so my heart was thumping so loudly in the Boeing 747 jet plane, I was afraid the next person would hear it! After about 9 hours the plane touched down in Incheon Airport in Korea and I got my first glimpse of real snow as my experience of snow was limited to the movies and pictures. Upon reaching Kansai Airport, Osaka the cold icy winds of spring slapped my face but I was too stunned to notice as I was seeing many things for the first time! It started with the shuttle ride to the airport, the big airport buildings, the beautiful vehicles of many colors and shapes and the many buildings of unique architectural designs that graze the streets. On the way to Osaka I could not take my eyes off the beautiful scenery even though it was approaching midnight when I made my way to JICA Center in Ibaraki City.

The first few days, was great as I was slowly introduced to the Japanese lifestyle, the history, the language and most of all acclimatized to the very different climate. Before I came to Japan, I had seen so much of it from movies and pictures but in Osaka I saw the reality of it all. I was amazed and shocked at the many trains that whisked by in zigzagged rails, the many vehicles that zoomed past each other, the tall buildings that grazed the cities and the many people who are always in a rush. In addition, in my short trip from Osaka to Takamatsu I had never seen so many bridges and buildings of many sizes and designs signifying how rich Japan is in ideas, resources and technology.

As I reached Naruto, which was to be my destination for 2 years my mood changed in response to the changes in scenery. Gone were the sights of big cities and now replaced with lush green vegetation, *satsumaimo* and rice fields, mixed with the pink shades of Sakura and the cool sea breeze. Oh how it reminded me of my homeland! Then when I saw the serene environment of Naruto University of Education sitting beside

the beautiful shores and blue seas, I was overjoyed at the most peaceful setting one could ever ask for to pursue higher education.

I learnt my way around fast and my love for Naruto grew with each passing day. This prompted me to bring my family to Japan and at the same time I was blessed to have a new addition to my family born in Naruto. I was very fortunate to be acquainted with many international students and the moments we have shared I will forever cherish. I always looked forward to international exchange programs organized by both the university and the various associations in Tokushima. I attended such programs in Isshi town, Aizumi town, Naruto city and Tokushima city. I felt however, that the highlight of this all was the opportunity to take part in the Japanese speech contest organized by TOPIA in Tokushima city last year after one and a half years of being in Japan. I also had the great opportunity of being invited with my family to speak at the Naruto Lions Club meeting in January 18th of this year. I have experienced a number of traditional Japanese cultural activities like tea ceremony, flower arrangement, pottery making, kimono wearing, making Japanese food like *osushi*, *omochi*, games like *chongake goma* or top spinning, *kendo*, kite flying and many more. I could say for sure that I have really enjoyed every moment of it! In terms of academic activities I consider myself very lucky to be studying amongst the best in the world. The staff of the university namely my honorable Professors, the administrative staff, the auxiliary staff and the students were the icing of the cake for being the best. I managed to acquire a lot of knowledge, skills and attitude necessary for an educator. In fact, this experience has brought about a radical transformation in my life and has elevated me to a whole new dimension in terms of mathematics education. This would help me in my mission to help uplift the standard of mathematics education in my country.

As the journey approaches its completion, I could only look back and extend my utmost appreciation and gratitude to all

国際交流



those who have walked with me and supported me throughout. To all my professors, colleagues, friends, family and acquaintances thank you for your help. I would be forever indebted to you all and I pray that the Almighty will bless you all.

It has been a journey worth travelling and I promise that I would be back!

Minna-san, hontoni domo arigatou gozaimashita...Ja, maata ne..

2010年3月21日、美しい国・フィジーで太陽の日差しが暗闇に差し込んだ頃、私は“日出づる国”への旅の始まりを迎えました。母国を離れるのが初めての経験だったため、ボーイング747機内では私の大きな鼓動が隣の席の人に聞こえないか心配でした。9時間後韓国の仁川空港に降り立ったときは、今まで映画や写真でしか見たことのなかった雪を初めて目にしました。その後大阪の関西国際空港に到着すると氷のように冷たい風が私の顔を打ちましたが、それが気にならないほど、初めて見るたくさんのものに目を奪われてしまいました。例えば、空港をつなぐシャトルに始まり、大きな空港施設、様々な色や形をした真新しい車そしてユニークなデザインの建築物などに大きな衝撃を受けました。大阪府の茨木市にあるJICAの施設に到着した頃には真夜中近くになっていましたが、そこまでの道中、美しい景色にすっかり目を奪われてしまいました。

はじめの数日は日本の生活習慣や歴史、言語、そして大半を大きな風土の違いについて紹介してもらいました。日本に来る前に映画や写真で見たことはありましたが、ジグザグに敷かれた線路の上を素早く移動する列車やスピードを出してすれ違う自動車の数々、都会に並ぶ高層ビル群、いつも忙しそうなお客を大阪で実際に目の当たりにしました。それに加え、大阪から高松に移動する間、私はあんなに大小様々な異なったデザインの橋や建物を見たのは初めてで、日本がいかにかアイデア、資源、技術に富んでいるかを表していました。

これから私が2年もの間滞在する鳴門に到着すると景色の変化同様、私の気持ちにも変化がありました。大都会の景色は消え、代わりに青々と茂った植物・サツマイモと田んぼが桜の色調と海風に混ざり合い、私の母国を思い出させたのです。その後、美しい海岸と青い海に隣

接する鳴門教育大学の環境を見て、この静かな場所で高等教育を受けられることに大きな喜びを感じました。

生活にも慣れ、鳴門を思う気持ちは日を追うごとに増していき、このことが家族を日本に呼び寄せたい気持ちを一層駆り立てたと同時に、新しい家族の鳴門での誕生を祝福したい気持ちでいっぱいとなりました。幸運にも、一生大切にしたいたくさんの留学生たちと知り合い、彼らと様々なことを共にすることができました。また、本学や徳島県内の石井町、藍住町、鳴門市、徳島市などの他機関が実施する国際交流プログラムをいつも楽しみにしていました。その中での私の一番の思い出は、日本に来てから一年半後の昨年夏にTOPIA（徳島県国際交流協会）主催の日本語弁論大会に出場したことです。その他には、今年の1月18日に鳴門ライオンズクラブに家族で招待され、スピーチをしたり、日本文化（茶道、華道、陶芸、着付け、日本料理（寿司、餅）、ちょんかけごま、剣道、わんわんだこなど）を体験したりしました。言うまでもありませんが、どの体験もとても楽しいものでした。

大学については、世界でも優れた、素晴らしい大学で勉強できたことを幸運に思います。先生方や、職員の皆さん、そして学生の皆さんは、例えば、ケーキを飾るアイシングのような存在です。ここで私は教育者として必要な知識、スキル、考え方を身につけることができました。この経験が、私の人生に激的な変化をもたらし、数学教育の新たな次元へと私を導いてくれたのです。このことが、私のミッションである、母国での数学教育の水準を高めるということに役立つと思います。

私の旅も終わりに近づき、振り返ってみると私を支えてくれたすべての人たちへの感謝しかありません。先生、仲間、友達、家族、知り合いの皆さん、助けてくれてあ



りがとうございました。今回の旅はとても価値のある旅となりました。私は必ず戻ってきます！

みなさん、ほんとうにありがとうございました。じゃ、またね…

〈院・国際教育コース 2年〉



ドイツ留学体験記 —リュースブルク・ロイファーナ大学留学報告—

◆ 学校教育研究科 石原知恵

私が8か月間過ごしたリュースブルクはドイツ北部に位置し、鳴門とは姉妹都市の協定を結んでいます。リュースブルクの街並みは本当に美しく、とても住みやすい街でした。通っていたリュースブルク・ロイファーナ大学は、鳴門教育大学に比べると規模は大きいですが、ドイツのなかではそれほど大きな大学ではなく、過ごしやすい大学でした。

8月、私は大学が主催するドイツ語の短期語学研修に参加し、約50人の留学生と一緒にドイツ語を勉強しました。心は何回も折れましたが、この経験がなければ私の留学生活は成立していなかったらと思うと今では思います。留学生の出身もさまざまです。やはりヨーロッパからの留学生が多く、アジア人は私を含め2人の日本人と4人の韓国人だけだったので少し心細いときもありましたが、留学生、プログラムのスタッフを含め、みんないい人達ばかりで、毎日楽しく過ごすことができました。

9月からは、本格的に大学が始まり、一緒に勉強する留学生達と、Semesterのオリエンテーションやドイツ語の集中講義に参加し、10月はドイツ語と英語を中心に、英語で開講されている英語教育学の授業にも参加していました。また、授業以外で、こちらにはタンデムパートナー (Tandem Partner) という制度があります。それは、日本語を勉強している現地の学生に私が日本語を教える代わりに、私はドイツ語を教えてもらう、というものです。そんな制度も利用して、ドイツ人とふれあう機会をできるだけ作るようにしていました。留学生達とはパーティーをしたり、大学が主催する小旅行やインターナショナルパーティーに参加したりと、交流の機会もたくさんあり、それぞれ違った文化を持つ友人たちと、楽しく刺激的な毎日を過ごすことができました。

帰国前の2週間は、ホームステイプログラムへ参加し、リュースブルクを離れ、ポーfumという町でホストファミリーと一緒に最後の2週間を過ごしました。そこでは語学学習だけでなく、家族の子どもと一緒に遊んだり、大学生活の中では味わえないような経験をたくさんさせてもらいました。



夏の短期語学研修 (右から2番目が筆者)

またドイツはヨーロッパの中心に位置するというので、ヨーロッパ各国への旅行もとてもしやすいです。クラシックコンサートや教会コンサート、オペラ、ミュージカル、バレエ、博物館や美術館の散策などなどドイツはもちろんのこと、さまざまなところでヨーロッパの文化に触れることができる機会が本当にたくさんあり、いろいろなところで、いろいろなことを見て、感じて、ヨーロッパの文化を満喫することもできました。

このような経験は、教員採用試験にも活かすことができ、無事に合格通知をいただくこともできました。大変なこと、しんどいことも含めて留学をエンジョイして、日本とは全く違う雰囲気の中で色々な刺激を受けながらのドイツ生活は自分の知らなかった世界を広げてくれるはずです。ドイツ人はとてもフレンドリーで温かいです。お店に行くと店員さんに笑顔で「Hallo!」と声をかけられると、自然とこちらも笑顔になります。日本のようなホンネとタテマエがある世界ではないので、言い方がダイレクトに聞こえてしまうこともありますが、そんな文化の違いも色々なところで感じて異文化を体験してほしいと思います。ドイツの生活に慣れるのに時間はかかりません。まずは笑顔で「Hallo!」から!

〈院・言語系コース (英語) 2年〉



リュースブルクの町並み



交流学生による自国紹介 - มาร์จิกประเทศไทยกันเถอะ (タイを知ろう!) -



- マールー チャック プテー タイ ガントゥ
- クワンチアン カノックワン
◆ KWANCHIEN Kanokwan シーナカリンウィロート大学 (タイ)
- ナンタロード スィリヤー
◆ NANTAROJ Siriya シーナカリンウィロート大学 (タイ)
- バックヌア ブンタリカー
◆ PAKNUA Boontarika コンケン大学 (タイ)

私たちはタイから来た学校教育学部特別聴講学生です。皆さんはタイの国についてどんなことを知っていますか？タイに遊びに行ったことがありますか？タイは面白いことがいっぱいあります。例えば、トゥクトゥクという三輪タクシーとか、尾長船タクシーとか、水上マーケットとか、タイボクシングとか、タイマッサージです。これらがタイの特徴です。また、タイの祭りは大切な行事です。4月の13, 14, 15日にタイの全域で行われるソンクラン祭り（水掛祭り）という祭りが 있습니다。タイで一番盛り上がる祭りだと思います。私たちは毎年のソンクラン祭りで

仏像に水をかけて清めをしたり、家族の年長者の手に水をかけて敬意を表したりします。そして、家族と一緒に家を掃除します。とても楽しくて、幸せです。皆さんも機会があれば、ぜひお楽しみください。

タイで今、流行っていることといえば、フェイスブックです。子供も若者も大人も楽しんでいます。みんな、自分のフェイスブックを絶対に持っています。毎日、毎日、フェイスブックで、友達に今日は何が起こるか情報もらっています。面白いですね。皆さんはフェイスブックを持っていますか？

私たちは昨年の10月に鳴門教育大学に来ました。日本語学習の他にも日本の文化とか日本の伝統について、いろいろな経験をしています。例えば、剣道、ちょんかけごま、染色、大正琴を教えていただきました。それから、着物を着たり、書道で年賀状を作りました。私たちにとってそういう経験は感動して忘れられない大事な経験です。鳴門教育大学に来てよかったと思います。

最後にパッポンカリー（カレー炒め）と言う簡単なタイ料理の作り方を紹介します。パッポンカリーの味は甘くて塩辛いです。あつのご飯と食べるとおいしいです。

パッポンカリー

- 材 料** えび（他のものOK！例えば、いかや鳥肉など）400グラム
セロリ 3本ぐらい 玉ねぎ 2分の1個
油 大さじ3 カレー粉 大さじ2
砂糖 大さじ2 しょうゆ 大さじ1
ラー油 大さじ1 卵 2個 だし少々

- 作り方**
1. えびを洗って皮を剥きます。
 2. セロリとたまねぎを切ります。
 3. フライパンに油を入れて、えびを入れて3分ぐらい炒めます。
 4. カレー粉を入れて、だしを少しだけ入れて炒めます。そして、砂糖としょうゆとセロリと玉ねぎを入れて、セロリと玉ねぎがやわらかくなるまで炒めます。
 5. 最後は卵とラー油を入れて3分ぐらい炒めて出来上がります。



幼稚園 もちつき

12月に恒例のもちつきをしました。前日に、園児たちが餅米を研ぐところから始めます。かまどに薪をくべて、蒸籠で蒸します。かまどの周りに集まる園児たちの中には初めて薪をくべたり、餅をついたりする子もいます。

近年は、街角や近所で餅つきをする光景を見ることが減ってきましたから、本園の餅つきは、失われつつある共同体の大切さやその力強さ、あたたかさを実感するかけがえのない機会です。

みどり会の会長さんをはじめ、理事さん、本園の職員OB、力自慢のお父さん、知恵袋のおじいちゃんおばあちゃんたちも駆けつけてきてくれました。

大勢の人々の力と真心が結集しました。「ぺったんこ ぺったんこ」と弾む声も調子よく、美味しい餅がつき上がりました。

◆ 附属幼稚園 佐々木 晃

つき上がった餅は、早速、おやつのおべかわ餅となりました。力一杯、杵をふるって上気した園児たちの顔が一層輝いていました。

日本の知恵のある暮らしを受け継ぐ子どもたちの育成は、私たちの願いです。この願いに共感してくださるたくさんの人たちのご好意に感謝の気持ちでいっぱいです。



小学校 小学校生活で2度の修学旅行

本校では、5年生で広島方面、6年生で大阪・京都・奈良方面へ修学旅行に行きます。どちらも、総合学習の単元の中に位置付いた、まさに学問を修めるための旅行となっています。

5年生では、平和記念資料館を見学したり、平和記念公園内で調べ学習をしたり、語り部さんにお話を伺ったりして、平和の尊さを学び、日本人としての自分の生き方を考えていきます。



6年生では、社会科で学んだ法隆寺、薬師寺、唐招提寺、東大寺、興福寺、平等院鳳凰堂、金閣寺、銀閣寺、清水寺、大

◆ 附属小学校 坂田 大輔

山古墳（堺市役所展望台から見学）を訪れ、歴史の重みを肌で感じて、歴史に学び、これからの自分の生き方を考えていきます。

このように書くと、とても堅い印象ですが、子どもたちにとって、やはり楽しみなのは、友達と楽しく過ごす時間です。5年生は1泊2日、6年生は2泊3日。見学地、バスの中、ホテルの部屋、食事の時間…どれをとっても忘れられない思い出となります。特に、6年生は、3日目にUSJでほぼ1日過ごし、楽しかった思い出が心に刻まれます。

親元を離れ友達と過ごす中で、総合学習での学びとともに、本校がめざす「思いやりのある子ども」「たくましく生きる子ども」「よく考える子ども」に1歩も2歩も近づく学びをして帰ってきます。

中 学 校 美しい学校を目指して



春から初夏にかけて附属中学校の正門通りは色とりどりのパンジー・ビオラで色鮮やかになる。登校する生徒や来校者の心を温かいものにしてくれる。これらの花は毎年10月に「花を育て心を豊かにする活動」の一環として贈られるものであ

◆ 附属中学校 片山 隆志

る。ボランティア部はこの善意の花々を植えるプランターや土の準備を2週間くらい前から始める。その後も除草や水やり活動を続ける。これらの活動があって美しい花が咲くのである。花は美術の時間のスケッチの題材ともなり、附属中の学習面でも役に立っている。

ボランティア部の卒業生は「誰かがしなければならぬ仕事がある。それを私たちがすることで他の人たちが気持ちよく過ごせるようになる。ボランティアはなかなか気づいてもらえるものではないけれど、することにこそ意味があると思う」と活動の意義を感じている。中庭や校内の整美も含めて、ボランティア部はこれからも附属中学校の「縁の下の力持ち」として活動を続けていく。

特別支援学校

わくわくする学校展について



本校では今年度学校重点目標の中に「わくわくする授業づくり」をきっかけ、児童生徒・教員・保護者がともに、わくわくする授業づくりと学校行事の見直しに取り組んでいます。

「心をひとつに！わくわく♥ハッピーたのしもう学校展」をテーマとし、12月4日（日）に学校展を開催しました。

学校展の目的は(1)日頃の学習の成果を発表するとともに、自分の役割を知り、日程に従って主

◆ 附属特別支援学校 加藤 浩

体的・意欲的に活動をする。(2)多種多様な参加者と接し、集団の中での過ごし方を学びながら交流を深める。(3)学校展の一連の活動を通して、社会生活の仕組みについての理解を深めるです。

今年の学校展は、わくわくの視点を随所に盛り込んだ素晴らしいものとなりました。

附属小学校の合唱部と高等部とのコラボや大学阿波踊りサークルと中学部との合同踊り、恒例の作品販売やバザーなど参加者全員がわくわくする学校展となりました。

来年度は学校展と学習発表会を合わせた学校祭としてより充実発展させたものにしたいと考えています。



図書館だより

卒業・修了後の図書館の利用について

卒業・修了後も図書館を利用することができます。利用方法としては、以下の2つの方法があります。

◎来館しての利用

図書の貸出、館内資料の複写等ができます。

図書の貸出をご希望の場合は、身分証（保険証等）を持参してください。「卒業生・修了生利用証」を発行いたします。

◎非来館での利用

利用者から申し込みのあった図書について郵送等により貸出を行なっています。なお、郵送料は申込者負担となります。

貸出手続きの詳細については、図書館ウェブページ(<http://www.naruto-u.ac.jp/library/>)の「一般利用の方へ」→「非来館貸出」をご覧ください。電話でお問い合わせください。(TEL 088-687-6156)

* 来館貸出、非来館貸出ともに図書の貸出冊数・貸出期間は以下になっています。

貸出冊数	貸出期間
5冊以内	1か月以内

※卒業・修了生へは雑誌の貸出はできません。

デジタル教科書と電子黒板について

デジタル教科書と電子黒板が図書館に入りました。どうぞご利用ください。



電子黒板は
セミナー室
で使えます！

マイライブラリの利用について

「マイライブラリ」は、インターネット上で、図書館からの連絡事項や利用者自身の貸出状況の確認、学外機関からの文献取寄せの申し込み等ができるサービスです。大変便利なサービスですので、ぜひご利用ください。

なお、「マイライブラリ」が利用できるのは学内に限定されています。

◎アクセス方法

図書館ウェブページの「マイライブラリ」をクリックするとログイン画面が表示されますので、「利用者ID」、「パスワード」を入力してください。

※利用者ID、パスワード

学生・情報基盤センターのパソコンにログインする際のユーザーID、パスワード。

教職員・メールを利用する際のユーザーID、パスワード。

各種ガイダンスについて

図書館では、学内の方を対象に下記の期間にデータベース検索や、雑誌論文などの収集を手助けする各種ガイダンスを実施しています。

詳しい日時などは、図書館掲示板、院生研究室などに適宜掲示いたしますので、ご確認の上、お申し込みください。

また、それ以外でも相談を受け付けておりますので、平日の17時15分までにカウンターへお越しください。

4月/新入生のための図書館オリエンテーション

春～秋頃/情報検索ガイダンス

データベース講習会

(大学院生、学部生、教員対象)

鳴門教育大学学生懲戒規程について

本学では、平成23年10月に「鳴門教育大学学生懲戒規程」を制定、11月1日から施行しています。ここでは、懲戒の種類と処分例を簡単に説明します。規程全文は、大学ウェブページ(TOP)教育・学生生活)学生生活関係諸規則)で確認してください。

【規程の概要】

<懲戒の種類等>

懲戒処分	退学(懲戒退学)	… 退学させ、再入学は認めない。
	停学	… 6か月未満の有期又は無期とし、この間の登学及び本学学生としての活動を禁止する。
	訓告	… 注意を与え、戒める。

上記の以外の措置
 「厳重注意」…教育的指導の観点から行う。
 「謹慎」…退学(懲戒退学)又は停学に該当することが明白であると認めた場合、懲戒処分が決定するまでの間、「謹慎」とする。登学及び本学学生としての活動は制限する。

懲戒等の要否及び種類は、非違行為の動機、態様及び結果、故意又は過失の程度、他の学生及び社会に与える影響、過去の非違行為の有無などを総合的に考慮し、懲戒処分例を参考に決定することになります。

<懲戒処分例(第4条関係)>

区分	非違行為の種類	懲戒の標準
犯罪行為等	殺人、強盗、強姦、放火等の凶悪な犯罪行為又は犯罪未遂行為	退学
	傷害行為	退学又は停学
	薬物犯罪行為	退学又は停学
	窃盗、万引き、詐欺、他人を傷害するに至らない暴力行為等の犯罪行為	退学、停学又は訓告
	痴漢行為(覗き見、盗撮行為その他の迷惑行為を含む。)	退学、停学又は訓告
	ストーカー行為	退学、停学又は訓告
交通事故	死亡又は高度な後遺症を残す人身事故を伴う交通事故を起こした場合で、その原因行為が無免許運転、飲酒運転、暴走運転の悪質な場合	退学
	人身事故を伴う交通事故を起こした場合で、その原因行為が無免許運転、飲酒運転、暴走運転の悪質な場合	退学又は停学
	無免許運転、飲酒運転、暴走運転等の悪質な交通法規違反	停学又は訓告
	死亡又は高度な後遺症を残す人身事故を起こした場合で、その原因行為が前方不注意等の過失の場合	停学
	人身事故を伴う交通事故を起こした場合で、その原因行為が前方不注意等の過失の場合	停学又は訓告
飲酒の強要等	飲酒を強要し重大な事態を生じさせた場合	退学又は停学
研究活動における不正行為	発表された研究成果の中に示されたデータや調査結果等の捏造、改ざん及び盗用を行った場合	退学、停学又は訓告
試験における不正行為	本学が実施する試験等における不正行為で身代わり受験等の悪質な場合	退学又は停学
	本学が実施する試験等におけるカンニング等の不正行為	停学又は訓告
	本学が実施する試験等において、監督者の注意又は指示に従わなかった場合	訓告
その他の非違行為	本学の教育研究又は管理運営を著しく妨げる暴力的行為	退学、停学又は訓告
	本学が管理する建造物への不法侵入又はその不正使用若しくは占拠	退学、停学又は訓告
	本学が管理する建造物又は器物の破壊、汚損、不法改築等	停学又は訓告
	本学構成員に対する暴力行為、威嚇、拘禁、拘束等	退学、停学又は訓告
	コンピュータ又はネットワークの不正使用	退学、停学又は訓告
	セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント及びパワーハラスメント等に当たる行為	退学、停学又は訓告

行事予定

● ● ● 平成24年度前期

		行 事 等	
共通	4月1日(日) ~ 4月8日(日)	春期休業	
	4月5日(木)	入学式	
	4月5日(木) ~ 4月6日(金)	新入生オリエンテーション	
	4月9日(月)	授業開始	
	4月22日(日)	履修登録締切	
	4月23日(月) ~ 4月27日(金)	履修登録変更期間	
	7月初旬	四国地区大学総合体育大会(四国インカレ)	
学部	4月6日(金) ~ 4月7日(土)	新入生合宿研修	
	6月12日(火) ~ 6月13日(水)	3年次生附属校園観察実習(附幼・小・中)	
	7月31日(火) ~ 8月6日(月)	前期試験期間	
	8月7日(火) ~ 9月30日(日)	夏期休業	
	8月23日(木) ~ 8月30日(木)	集中講義	
	8月27日(月) ~ 9月7日(金)	2年次生保育所実習Ⅰ(鳴門市内保育所等)	
	8月27日(月) ~ 9月7日(金)	4年次生保育所実習Ⅱ(鳴門市内保育所等)	
	9月3日(月) ~ 9月28日(金)	3年次生・長期履修生主免教育実習(附幼・小・中, 協力校)	
	9月3日(月) ~ 9月14日(金)	4年次生教員インターンシップ(附幼)	
	9月3日(月)~9月30日(日)のうち2週間	4年次生教員インターンシップ(鳴門市内小・中)	
	9月6日(木)	ふれあい実習(観察実習)(学内)	
	9月10日(月)	ふれあい実習(観察実習)(附幼・小・中)	
	9月11日(火), 9月12日(水)のうち1日	ふれあい実習(交流実習)(鳴門市内幼稚園)	
	9月24日(月)~9月28日(金)のうち1日	ふれあい実習(交流実習)(附特別支援)	
	9月24日(月) ~ 9月25日(火)	2年次生合宿研修	
	大学院	8月1日(水) ~ 9月11日(火)	夏期休業
9月12日(水) ~ 9月30日(日)		集中講義	
大学院 大学院 教職	8月1日(水) ~ 9月11日(火)	夏期休業	

<入試関係行事>

- ・大学院入試
8月

<学生会主催行事>

- ・部・サークル紹介
4月5日(木)

<院学生会主催行事>

- ・ソフトバレーボール大会
・国際交流パーティー 等
6月

学生表彰について

本学には、課外活動等において、優秀な成績を修め、かつ本学の名誉を高めた場合において当該学生又は学生団体を学長が表彰する学生表彰制度があります。

平成23年度における表彰が決定した方々は、次の皆さんです。

	氏名(団体名)	所 属 (学 年)	表 彰 事 由
前 期	三間富久美	学部・中学校美術4年	第19回放美展(彫刻部門)放美賞
	長栄 知佳	院・人間形成2年	第32回徳島県女子剣道大会(25歳未満の部)優勝
	大石 藍子	学部・中学校家庭4年	第32回徳島県女子剣道大会(25歳未満の部)第3位
	金澤 健司	院・生活・健康系(保健体育)2年	第62回四国地区大学総合体育大会水泳競技(男子)50m自由形第1位 200m個人メドレー第2位
	上田 裕貴	院・生活・健康系(保健体育)2年	第62回四国地区大学総合体育大会水泳競技(女子)50m平泳ぎ第2位
	山崎 美穂	院・臨床心理士養成1年	第62回四国地区大学総合体育大会水泳競技(女子)200m背泳ぎ第2位
	山田 昌弘	院・生活・健康系(保健体育)1年	2011年度日本マスタート水泳選手権大会(グループ70男子)200m平泳ぎ第3位, 100m平泳ぎ第5位, 200mバタフライ第3位, 100mバタフライ第4位
	福良祐香子	学部・幼児教育3年	第62回四国地区大学総合体育大会水泳競技(女子)100mバタフライ第1位, 50mバタフライ第2位
	伊藤 希望	院・現代教育課題総合2年	第62回四国地区大学総合体育大会陸上競技(女子) 走幅跳第1位, 200m第2位, 100mH第2位
	廣田愛実里	学部・中学校保健体育2年	第62回四国地区大学総合体育大会陸上競技(女子)走高跳第1位
	剣道部(男子)		第62回四国地区大学総合体育大会 剣道男子団体第3位
	剣道部(女子)		第32回徳島県女子剣道大会 団体戦B組準優勝

(後期は該当者がありませんでした。)

溝上賞

この溝上賞は、本学の第4代学長、名誉教授であります溝上 泰氏の功績をたたえる顕彰事業として設けられたもので、溝上氏から寄贈された基金によって運営されており、上記の学生表彰被表彰者のうち、特に顕著な功績をあげたものの中から一人又は1団体を表彰するものです。

平成23年度を受賞は、次の方に決定しました。

金澤 健司(生活・健康系コース(保健体育))





就職支援 行事予定

※詳細は就職支援室で
確認すること。

- 教員採用試験対策説明会(学内) 4月11日(水)
- 教員採用模擬試験 4月21日(土)
- 教採対策ガイダンス(実践編) 4月11日(水)～6月21日(木) (5月2, 3日除く毎週水・木)
- 教員採用試験説明会(教育委員会) 4月中旬, 6月上旬
- 教採実技ガイダンス(集団) 5月26日(土)
- 教採実技ガイダンス(個人) 6月16日(土)
- 教採実技ガイダンス(音楽) 5月30日(水), 7月4日(水)
- 教採実技ガイダンス(美術) 7月上旬
- 教採実技ガイダンス(水泳) 7月上旬, 7月下旬
- 教採実技ガイダンス(ボール・器械運動) ... 7月11日(水), 7月14日(土)
- 教採二次対策ガイダンス 7月下旬～9月上旬
- 教採対策ガイダンス(直前編) 6月27日(水), 28日(木), 7月4日(水), 5日(木)

編集後記

学園だより第65号をお届けします。

東日本大震災と原発事故の波紋が広がっていく中で、私たちは、重苦しい気持ちを抱えながら、今年度をスタートさせました。しかし、私たちの大学は創立30周年の節目を迎え、教員就職率が2年連続全国一位になるという喜ばしいニュースも入ってきました。歴史は、やはり、前に向かって歩んでいると思う一年でした。

投稿にご協力くださった方々に感謝申し上げます。(MN)

編集：鳴門教育大学学生支援委員会 発行：鳴門教育大学学生課

発行地：鳴門市鳴門町高島字中島748番地

☎ 088 (687) 6118

http://www.naruto-u.ac.jp/

